



● 日本イエイツ協会第51回大会報告

駐日アイルランド大使 Anne Barrington 氏のメッセージ

Message for the 51st Annual Conference of the Yeats Society of Japan

7-8 November, 2015

Seinan Gakuin University

I am delighted to send this message of support to the 51st Annual Conference of the Yeats Society of Japan and my best wishes to Professor Ryoji Okuda its President.

This year marks the 150th Anniversary of the birth of the great poet, William Butler Yeats and lovers of Yeats have been celebrating throughout the year and all over the world. From Ottawa to Oxford, London to Lisbon, Sligo to Shanghai and Seoul, there have been Yeats performances, re-enactments, lectures, programmes, plays and all forms of celebration.

Here in Japan we celebrated Yeats' 150th birthday over three days from 12 to 14 June with a festival at Theatre XCaï in Tokyo. The festival included a performance by a four member group from Ireland, *Guthanna Binne Síoraí*, the first performance of Yeats' *Deirdre* in Japanese by a Tokyo-based troupe; a performance of *At the Hawks Well* by a Noh Actor, Tetsunojo Kanze, and a new musical work created by Tokyo based Irish composer, Paul Hayes, for a visiting dancer from Ireland, Megan Kennedy, based on Yeats' poem *The Song of Wandering Aengus*. The Japan Ireland Society (JIS), also held their academic a symposium on *Japan and Yeats* at that time.

From 15 June to 10 July, Seijo University hosted an exhibition, *The Life and Works of William Butler Yeats*, to coincide their annual English language seminar. Guthanna Binne Síoraí also performed at the launch event.

In Hiroshima, a city commemorating 70 years since the dropping of the first atomic bomb, IASIL held its 32nd International Conference on the theme of *Commemorations* and Professor Patrick Crotty delivered a lecture titled *Instant Commemoration: Yeats 'Easter 1916' and the Easter Rising* and there were panel discussions on Yeats. Some days later, Professor Crotty delivered a lecture in Waseda University which included broad Yeats themes.

So, you can see it has been a year full of the celebration of Yeats' life and work and the celebration will continue. This is because people like you who make up the Yeats Society of Japan recognise that Yeats is in the top tier of the greatest poets ever. Your ceaseless work in delving into Yeats' work, in getting together to discuss it and in broadening its appeal to a new generation is hugely appreciated.

When Yeats won the Nobel Prize for Literature in 1923, the first Irish person to do so, it was "for his always inspired poetry, which in a highly artistic form gives expression to the spirit of the whole nation". As we head into the 100th Anniversary of the Easter Rising next year, the year which saw the start of Ireland's journey towards independence, Yeats' legacy in helping to forge the spirit of the whole nation will, no doubt, come under scrutiny again. I will look forward to the Yeats Society of Japan being at the forefront of that examination.

Anne Barrington
Ambassador

2015年度の年次大会を11月7日(土)、8日(日)に福岡の西南学院大学において開催しました。

今大会は、イエイツ生誕150周年の年に当たり、国内外の各所でイエイツ関係のイベントや研究会が開催され、加えて研究書や翻訳など、出版物も多く発表されました。開催校を快くお引き受けくださった三宅敦子氏、江崎義彦氏には、準備から大会終了まで運営へのご尽力と細やかなご配慮をいただきました。また、お手伝いくださった西南学院大学の学生の皆様にもたいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。

初日は、基調講演、研究発表2本、シンポジウム、2日目には、研究発表3本、ワークショップというプログラムが構成されました。

第1日目に、会長奥田良二氏の開会の挨拶、西南学院大学文学部長和田光昌氏のご挨拶に続き、引き続き駐日アイルランド大使 Anne Barrington 氏のメッセージ(上記参照)を真鍋晶子氏が代読。両氏のご厚意に感謝いたします。

基調講演には、榎木伸明氏(早稲田大学教授)が『ジョン・シャーマン』とイエイツの内なるスライゴー」と題し、今後のさらなる考察が待たれるイエイツの初期の小説を題材に、スライゴーにどのような心象風景を抱いていたのか、イエイツの原点をテーマとする講演でした。

その後、坂内太氏（早稲田大学教授）が「変容のヴィジョン — イェイツ、シング、ジョイス」（司会 萩原眞一氏）、荒木映子氏（龍谷大学教授）が「第一次世界大戦とアイルランド—イェイツの戦争詩再考」（司会 鈴木哲也氏）とそれぞれ題し研究発表。

今年度の総会は、司会を柿原妙子氏が担当し、議長として江崎義彦氏を選出。審議事項として、①2014年収支決算並びに2015年度予算を審議と承認 ②現口座の廃止と2016年4月から新規銀行口座開設の審議と承認（別項と別紙参照） ③『イェイツ研究』投稿規定の追加と「研究ノート」内規に関する審議と承認（別項参照） ④2016年代52回大会開催地と日程の審議と承認、をそれぞれ行いました。また、報告事項として、①『イェイツ研究』46号の編集状況、②国際イェイツ協会第1回大会参加の報告（別項参照）が、それぞれ行われました。

午後には、浅井雅志氏（京都橘大学教授）の司会・構成によるシンポジウム「イェイツと1930年代——オーデン・グループを参照枠として」があり、パネリストとして山崎弘行氏（大阪市立大学名誉教授）と辻昌宏氏（明治大学教授）。ヨーロッパが混迷する1930年代を背景に、ポスト・イェイツ時代の旗頭「オーデン・グループ」を取り上げ、イェイツと同時代詩人たちが、この時代にどう対応していったか、文学や芸術のあり様を多角的視点から検討、活発なディスカッションが行われました。

翌2日目の午前中に西谷茉莉子氏（愛知学院大学講師）が「イェイツと聴衆：“Three Songs to the Same Tune”の改作についての考察」（司会 伊達恵理氏）、伊東裕起氏（啓文社）が「A Visionにおける「エロイ・エロイ・レマ・サバクタニ」」（司会 小堀隆司氏）、木原誠氏（佐賀大学教授）が「「イニシフリー湖島」に描かれたく透かし絵—イェイツと聖パトリックの煉獄の穴」（司会 松村賢一氏）とそれぞれ題し研究発表。

午後には、松田誠思氏（親和女子大学名誉教授）の司会・構成によるワークショップ「イェイツのナショナルリズムを問い直す」を行いました。パネリストとして木原謙一氏（九州市立大学教授）、諏訪友亮氏（東京女学館准教授）が務めました。アイルランド独立を中心に大きく揺れた時代を生きたイェイツにとってのナショナルリズムは様々な相貌を持ち、その文学解釈にも大きく反映しています。イェイツのナショナルリズム、アイデンティティ問題を多様な視点から作品を通して再考する画期的なワークショップとなりました。

大会両日を通じて、会員のみならず非会員の参加が多かったのは嬉しいことでした。フロアとの質疑応答やディスカッションが熱を帯び、時間内に収まりきれず情報交換会の場においても、議論が所々で交わされていました。さらに、会員が上梓された著作の紹介などもあり、著者自身の苦労話や研究活動が披露されました。

閉会の辞では、逢坂収氏（九州大学名誉教授）が、日本イェイツ協会にまつわる思い出とともに、文学研究の大切さなどを語り、参加者たちに感銘を与える辞で大会を締めくくられ盛会の内に終了。イェイツ生誕150年を記念する意義ある大会となりました。

● 国際イェイツ協会第1回大会報告

国際イェイツ協会（the International Yeats Society）の第1回大会が、2015年10月15日から18日まで、アイルランド共和国のリムリック大学で開催されました。初めての大会にもかかわらず、世界各地から約60名が参加し、3つの講演、37の研究発表が行われました。大会全体のテーマは、イェイツ生誕150年ということもあり、“A Writer Young and Old: Yeats at 150”でした。日本からは、佐藤容子先生、真鍋晶子先生、奥田の3人が“Yeats and Japan”のテーマで、それぞれ、イェイツと能、狂言、大江健三郎との関係について発表しました。聴衆の反応も良く、活発な質問があり、日本に対する興味の深さを感じました。また、石川隆士先生が、“The Labyrinth of the Wind: The Sacred Spiral of Death and Resurrection”という題で研究発表をされ好評でした。日本以外の発表も、各国の視点から見たそれぞれの地域の特色のある研究がなされていて、とても興味深いものが多かったと思います。大会最終日には、Thoor Ballylee や Cool Park を巡り、あらためてイェイツの spirit を感じました。

大会期間中に、国際イェイツ協会会長の Margaret Harper 先生から、今後発行される Journal に日本イェイツ協会の『イェイツ研究』に掲載された論文の翻訳を載せたい、また、2018年に日本で大会を開きたい、と言われました。このことに関しては、日本でのイェイツ研究が世界に知られる良い機会ですので、日本イェイツ協会としても協力したいと答えました。現在、委員会を中心にどのような協力ができるかを話し合っています。会員の皆様のご協力もぜひよろしくお願い申し上げます。（文責 奥田良二）

●2016年度日本イェイツ協会第52回大会開催について

2016年度 第52回大会を10月22日（土）、23日（日）の両日に渡り、東海大学（高輪キャンパス）において開催予定です。

今年は「イースター蜂起」100年を迎えます。それをテーマとし、様々な観点からイェイツならびに同時代を検討する予定です。さらに充実した大会の実現を目指しております。

現在、今回のテーマに相応しい基調講演の担当予定者と交渉中です。シンポジウムのテーマは、「イェイツと復活祭蜂起」（仮）ワークショップは、「Easter 1916」（仮）を予定しており、司会・構成担当予定者と交渉中です。

シンポジウムとワークショップにご参加をご希望の方は、4月末日までに、事務局にお申し込みください。

また、研究発表を希望される方は、5月末日までに、タイトルと概要を添えて、事務局にお知らせください。なお、研究発表については、必ずしも「復活祭蜂起」をテーマにしたものでなくて結構です。会員の皆様からの積極的なご参加をお待ちしております。不明点などは、事務局にお問い合わせください。

● 『イエイツ研究』原稿募集

『イエイツ研究』47号の原稿を募集しています。締め切りは、2016年5月末日となっています。詳細につきましては、同封の『イエイツ研究』46号投稿規定(114頁から115頁)をご覧ください。

また、総会で提案、審議・承認を受けましたが、『イエイツ研究』掲載号の著者への進呈部数をあらたに規定しました。(論文執筆者:5冊、研究ノートならびに書評執筆者:3冊、発表要旨執筆者:2冊)

論文査読基準ならびに「研究ノート」の内容に関しては、同号の編集後記(112頁から113頁)をご参照ください。

皆様の積極的な投稿をお待ちしています。

● 会費振込等の新規銀行口座について

以前より告知していましたが、この度「ゆうちょ銀行」に普通口座を開設しました。「ゆうちょ」はもとより、他の金融機関からも振り込みが可能です。

「ゆうちょ」からの振り込と他の金融機関からの振込では、振込番号が若干異なりますので、その点ご注意ください。(別紙参照)

つきましては、これまでの振込口座は2016年2月末日を持って終了いたします。

会員の皆様には、2016年3月以降のお振込みは新しい口座にお願い申し上げます。

一般会員:5,000円 学生会員:2,000円

ゆうちょ→ゆうちょ(日本イエイツ協会総合口座)

記号=10100

番号=51712871

他の金融機関→ゆうちょ(日本イエイツ協会普通預金口座)

店名=〇一八(ぜろいちはち)

店番=018

口座番号=51712871

日本イエイツ協会は、会員の皆様の会費によって運営されています。この度、2014年以降の会費納状況のお知らせを同封いたしましたので、別紙参照のうえ、会費納入のご協力をお願い申し上げます。

● 訃報 米須興文琉球大学名誉教授

2015年、12月17日に米須興文先生(琉球大学名誉教授)がご逝去されました。

The Double Perspective of W.B. Yeats's Aesthetics (Gerrards Cross, Colin Smythe 1984年)を初めとし、優れた研究の数々を著し、国内外で活躍されました。近年では、2010年に琉球大学で開催された第46回大会では、『魂の響き合い—アイルランドと沖縄』と題し講演をしていただき、参加者に大きな感銘を与えてくださいました。突然の訃報に大変驚きましたが、先生の長年に渡るイエイツ研究への貢献に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

● 会員の住所・所属等の変更について

会員の皆様の住所・メールアドレス・所属等の変更につきましては、お手数をおかけしますが、メールもしくは郵便等で下記の事務局までお知らせください。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



日本イエイツ協会は、日本学術会議の協力団体として登録されています。

**** The Yeats Society of Japan ****

日本イエイツ協会事務局

〒270-0198 千葉県流山市駒木 474

江戸川大学

メディアコミュニケーション学部

情報文化学科 海老澤研究室内

Tel: 04-7152-9923

Fax: 04-7153-5904

Email: mkunie@edogawa-u.ac.jp

URL: the-yeats-society-japan.jp

